



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発行者 情報宣伝部
2025年1月1日号外

2025年 本年もよろしく願っています

上空から富士山を望む

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。
組合員・ご家族の皆様におかれましては輝かしい
新春を迎えられたことをお慶び申し上げます。

今冬は寒さも厳しく、北日本・北陸地方では例年
にも増して豪雪が吹き荒れています。大変厳しい環
境の中ではありますが、除雪作業など安全を最優先
にして行っていたきたいと思います。

昨年2024年は「能登半島地震」「羽田空港衝
突事故」など大変痛ましく悲しい出来事から始まり
ました。8月には気象庁が「南海トラフ地震臨時情
報」を発表したほか、各地では連日にわたって記録
的、かつ災害級の猛暑や台風、落雷、ゲリラ豪雨が
発生するなど自然災害との闘いの1年でありまし
た。そのような中でも私たちはお客さまの安全を最
優先とし、組合員自らの健康と命を守りつつ、安
全・安定輸送に徹してきました。

また東北新幹線・架線トラブルにおける復旧作業
員の感電事故をはじめ、JR労働者の相次ぐ墜落事
故など三大労働災害が多く発生しました。そのほか
にも京葉線ダイヤ改正の問題、みどりの窓口閉鎖の
問題など、お客さまを置き去りにした施策が実施さ
れ、大変なご迷惑と混乱を招く事態となりました。
さらに賃金未払いや車軸データの改ざんなど、会社
による不祥事も発生しました。社員とお客さま、地
域の皆様の信頼と期待を裏切る行為であり、決して
あつてはならないことです。まさに安全と命、会社
の施策について深く考えさせられ、労働組合として
の使命を強く感じた1年でもありました。

2024年の取り組みを振り返ると大変厳しい
闘いの連続でした。コロナ禍からの業績回復、労働
実感、社会全体で賃上げへの期待が高まる中、経営
側は「年収ベースでの見通しが一定程度立つことにな
る」「社員が計画的な生活設計を立てられる」こ
とを理由に新賃金と夏季手当との「同時議論」を提
案してきました。私たちは「労働組合や社員が求め
ているのは議論時期ではなく納得のいく支給額で

ある「賃金支給の抑え込み手法となることが予想さ
れる」と主張し、組合員と共に闘いをつくってきま
した。2024年度年末手当では好調な業績と社員
の奮闘に対する成果配分を求めると共に、夏季手当
に含まれなかった社員の成果分を取り戻す闘いをつ
くり出してきました。職場からの闘いを通じて経営
側による「同時議論」は抑え込みの手法であったこ
とが明らかとなり、社員のモチベーション低下を生
み出す要因となっています。

私たち東日本ユニオンは取り組みを通じて大きな
成果と克服すべき課題、そしてめざすべき方向性を
明らかにしてきました。このことは闘いなくして得
ることはできませんでした。まさに組合員が現状に
甘んじることなく、自らを闘いへと奮い立たせてき
た成果にほかなりません。2025春闘勝利に向け
て闘いをさらに強く大きくしていきたいと思います。

いま「年収の壁」が大きな注目を浴びています。
手取りを増やして実質賃金を上げていくことの方法
の1つであり異論はありません。しかし、私たちの
めざすところは賃金の引き上げです。私たちの労働
力の価値を賃金に反映させなければなりません。2
024年における賃金引き上げの闘いを教訓に、全
てのJR労働者の団結をもって労働組合が主体とな
った2025春闘を闘います。

会社施策が加速する中「施策や賃金に将来が見出
せない」ことなどを理由に社員のモチベーション低
下や離職が後を絶ちません。「社員に期待されない会
社」「本音を語れない職場」では社員と家族の明るい
未来は創造できません。いまある現実から目を背け
ることなく、否定的な現実を変えていく2025年
にしていきたいと思います。

2025年が組合員・ご家族の皆様にとって、健康
で実りある1年であることを祈念申し上げます。
本年もよろしく願っています。

2025年 元旦

JR東日本労働組合 中央執行委員長 藤本 圭一